

さくらの里だより

三寒四温という言葉のとおり、暖かさと寒さが繰り返されていますが、だいぶ春らしさを感じる季節になりました。地域によってはまだ雪が残っていたり、すっかり雪がとけて土色から草花の緑色へ変わり始めているところもあります。

3月中旬になれば、桜の話題も多くなりますね。桜の花言葉をご存じですか？「精神の美」「優雅な女性」という意味があり、日本の国花とされ、日本人の品格を表しているそうです。種類によって多少意味も変わるようですが、満開になった時の優美な姿、そして散る時の潔さ。その風景が表面だけでなく芯の通った内面の美しさを表現しているとされています。小さな花ですが、意味を考えるととても大きなものに見えてきますね。桜が咲くと気になるのが雨。満開の時に雨が降ってしまうと一気に花が散ってしまいます。今年の春はできるだけ長く桜を楽しめるお天気が続くといいですね。

それでは、今月もさくらの里の様子をお届けしたいと思います。(チバ)



節分 ハイチース



最後は仲良くハイチース！！



2月3日節分。病気や災害(鬼)を追い払おうと豆まきを行いました☆
「よーし！ぶつけるぞー！」と意気込んでいる方、鬼の登場前に豆(ボール)を投げて練習する方、一年に一度の行事に少し緊張した面持ちで、それぞれの思いをぶつけていました(^)/男性職員が扮した鬼が「ウォーッ！」と登場すると、「鬼は外！福は内！」と叫んでは、鬼に豆(ボール)をぶつけておられました。中には「可哀そうでぶつけられない」と、優しく投げる方もおられました。もちろん「参りました～」と鬼は降参。災害や病気を寄せ付けず、元気に一年を過ごして頂ければと願うばかりです。豆まき後は歳の数ほどとはいきませんが、豆ならぬ甘納豆と鬼の顔の和菓子を美味しく頂きました♪
(メグミ)





節分 特養

今年もさくらの里に鬼がやってきました！！



2月3日に節分の豆まきを実施しました☆
 男性職員が鬼の格好をして利用者様の前に現れ、豆の代わりにボールを一生懸命にぶつけられていました(*^^*)中には少し怯えた表情が見られる方や鬼のお面を取ろうとされる方もいらっしゃいました♪(笑)
 「昔はこうして豆まきしたもんだよね」と昔ばなしに花を咲かされていました(^_^♪
 現代では少しずつ薄れてきている風習ですが、季節を感じる上では大事な行事の1つだと改めて感じさせられました☆これからも昔ながらの風習を大切にしていきたいと思いながら、利用者様と季節を感じて過ごしていきたいと思えます(*^^*) (ミカ)



節分 ショートステイ



鬼にめかけて「鬼は～外♪福は～内♪」

今年もカラフルで優しそうな鬼が登場(^_^) U~~
 各ユニットを鬼たちが回り、利用者様は豆に見立てた玉を鬼たちに思いっきりぶつけていました♪
 鬼の正体が職員だと知っている利用者様は、わざと強く玉をぶついたり、優しくぶついたり…笑。思い思いに玉を投げて楽しまれていました(^▽^)/鬼たちも笑いながら退散していきました(^_^♪
 玉を投げることで、普段動かさない腕や肩を動かす機会となり、楽しいひと時となりました☆
 運動後の昼食には美味しいちらし寿司をおなかいっぱい食べました♪ (ノゾミ)



節分 デイサービス



春風にのり、ほのかな花の香りが漂う頃となりました。
デイサービスには先月鬼が襲来し『福の神』とのレースが繰り
広げられました。太鼓の音と共に鬼が登場し、その後から『福の神』が登場☆



鬼と『福の神』とのレースは熾烈を極め、抜きつ抜かれつの展開が広げられました。鬼が勝ちを確信しゴールに入る直前！！利用者様と職員が「鬼は外！福は内！」の掛け声と共に豆をぶつけ、その間に『福の神』が…ゴール☆多(*^*)v結果、見事、利用者様と鬼の撃退に成功いたしました。



『福の神』と利用者様で「今年も良い年でありますように☆」と願いをかけ終了。とても盛り上がりました♪
また、カフェでは先月好評いただいた『初釜』を行いました。和菓子とお抹茶の味は申し分なく、利用者様のほとんどの方がおかわりをされておりました。味の感想を利用者様に何うと「美味しかった」との言葉が多く聞かれ、私たち職員も大満足(^*)v (マサル)



職員紹介



<名前>佐々木 美和
<部署>ケアハウス 介護員
<一言>

趣味はDIY・料理・ドライブ&温泉
コロナ禍…そんな中、はまっているのが
果実サワーを作ることです。



<名前>佐々木 まゆみ
<部署>デイサービス 介護員
<一言>

趣味は映画観賞
最近娘の影響でアニメ映画をよく観ています。
コロナ感染が猛威を奮っていますが、皆さん自分に
合ったストレス解消法を見つけて乗り切りましょう！





紙おむつの始まりは乳児である赤ちゃん用からとされています。戦時下の影響で綿布不足となり、布おむつが作れなくなったことから考案されたのが紙おむつだそうです。

日本の大人用の紙おむつが誕生してから約60年が経過しようとしています。様々な進化を遂げ続けている紙おむつの誕生から現在までを紹介します。

1962年 大人用の紙おむつが誕生

当時は一般市民にはなじみがなく病院での使用がメインでした。日本では昔からおむつは布とされており、古くなった綿の浴衣などを切っておむつの大きさに縫って使用していました。

1983年 テープ型おむつが開発

テープで止めるだけで使用できる使いやすさから、在宅介護にも使用されるようになりました。

1984年 高分子吸収体が開発

いわゆる「ポリマー」です。大人の1回分の排尿を吸収できる高い吸収力を持つまでに品質が向上しました。

1994年 パンツ型が開発

大人用のおむつが開発されて以降、全ての効能が一体化され下着のような形式となりました。フラット型やテープ型は自分では交換できない方が対象となっていますが、パンツ型は自ら装着できる製品です。



人にとってデリケートな「排泄」に関わる役目を担う「おむつ」。健全な時は「おむつをしたら終わりだ！絶対イヤだ！」という話題を高齢者の方々から聞きます。しかし、病気や加齢で日常生活の動作が難しくなっている方にとっては毎日身につける「下着」と言えるものです。

おむつ類も進化して様々な種類があります。何を使ったら良いか選ぶ時に困ったことがあればケアマネージャーへご相談下さい。(カトウ)

おむつは排泄ケアという役割を超え、高齢者の人格ある自立への意欲を促進します。本格的な高齢社会に対応した、まさに「高齢者の排泄自立」というテーマを備えているのが特徴です。



☆編集後記☆

「1月は行く・2月は逃げる・3月は去る」という言葉があるように、1月から3月はやることが多いのにあっという間に過ぎてしまうという意味ですね。言葉のとおり、気がつけばもう3月…あっという間に今年度も終わりそうです(;-;)時間は戻せない、待ってもくれない。改めて時間を大切にしないといけないと思う今日この頃です。(アユミ)